

宮本輝『道頓堀川』論  
～道頓堀とその人々が持つ性質・力について～  
文19－676 村田瑛輝

【目次】

1. 作品概要
2. 研究概要
3. 「道頓堀」という空間
4. 道頓堀の人々
5. 邦彦の「道頓堀」脱出
6. 最後に

# 1. 『道頓堀川』概要

---

○作者・・・宮本輝

○書誌情報

『道頓堀川』に『泥の河』  
『螢川』を加えて川三部作

・1978年4月「文芸展望(21号)」に掲載

・1981年5月 筑摩書房より大幅な加筆改稿を行い出版

○あらすじ

この作品は、両親を亡くし孤独の身である大学生の主人公邦彦と、同じく過去に自身が原因で妻を亡くし邦彦の住み込み先である喫茶店リバーの店主である武内を中心に展開されていく物語である。それぞれの想いや悩みを胸に秘めた人達が集まる道頓堀という空間で様々な人達と関わり、邦彦や武内は自身と向き合っていく。これは邦彦という青年を通して道頓堀に生きる人々の情熱、そして「生」のエネルギーを描いた作品であり、邦彦が道頓堀を通して自身と向き合い成長していく物語である。

## 2. 研究の概要

---

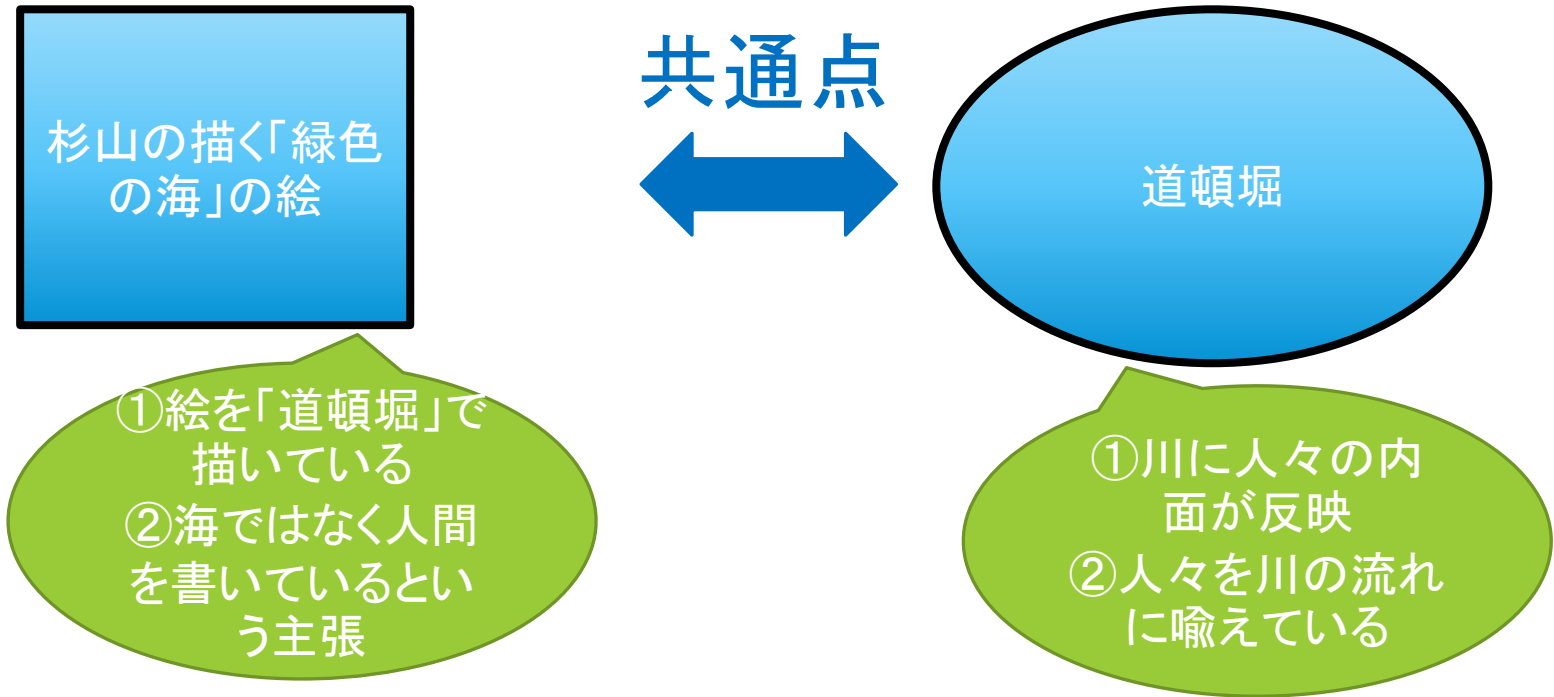
### ・研究の目的

→舞台に設定されている「道頓堀」という空間とそこに住む人々の持つ性質とそれぞれの関係について明らかにする

### ・主な研究内容

- ①舞台である「道頓堀」と作中でも重要視されているビリヤードを重ね、「道頓堀」という空間の考察
- ②主人公である邦彦を中心として、登場人物の関係、互いに与え合う影響に注目し、考察

### 3. 「道頓堀」という空間



☆杉山の描く「緑色の海」＝「道頓堀」

☆道頓堀とそこに住む人々が重ねられている

### 3. 「道頓堀」という空間

---



- ①ビリヤード台＝道頓堀
- ②ぶつかり合うビリヤードの玉＝道頓堀の人々
- ③玉を突くキュー＝運命に翻弄されている人々

☆道頓堀の人々は限定された空間で運命に翻弄される

☆人々から夾雑物を引き剥がす力と居続ける者の色艶を奪い取る力

# 4. 道頓堀の人々

---

## ○邦彦・・・大人への成長

- ・武内: 父のような存在として邦彦の成長をサポート
- ・政夫: 親友、そして邦彦のなれの果てを示す形でサポート
- ・まち子: 恋愛関係を結び、成長の一つの転換点となる
- ・宇崎金兵衛と弘美: 邦彦に対して亡き父親の人物像を提示  
→邦彦はこの二人にとって亡き父親に対する恩返しの対象

## ○武内と政夫・・・互いの和解

- ・この二人の仲介役となるのが邦彦

# 5. 邦彦の「道頓堀」脱出

理由：色艶を失わないため

→そのために、道頓堀を脱出する必要性

〈道頓堀脱出に必要な要素〉

- ①まち子との恋愛による精神的な成長
- ②不鮮明な父親の人物像の確立
- ③自身のなれのはての自覚

・リミットは大人になる  
(=大学卒業)  
・きっかけはまち子との恋

思困難な仕事  
=武内からの独立

→脱出を妨げるもの・・・「思いのほか困難な仕事」

→終盤のビリヤードの場で武内の願いを無視し、背を向ける

☆ビリヤードの場で反抗することにより、「道頓堀(=ビリヤード)」からの脱出を意味している

# 6. 最後に

---

## ○まとめ

・道頓堀は人生に迷える人々が自分自身に向き合い、その人生の迷いを取り除いて自身の運命に抗うための力を得るための空間

→自身と向き合い、迷いを取り除けなかった者は色艶を失い、運命に抗うことが出来ず道頓堀という閉塞した空間から抜け出せなくなる

☆『道頓堀川』は、自身と向き合うことができる道頓堀という空間で、ちょうど大人へと成長する段階の邦彦が運命に翻弄されないよう抗う力を通して、人間の人生と運命、そしてその葛藤を描いた、「生」をテーマとした作品である。